

きょうと食いく先生へのアンケート調査結果

1 調査概要

(1)対象 きょうと食いく先生 25名

[地域] 京都乙訓4名、山城1名、南丹4名、中丹6名、丹後10名
[専門] 料理16名、農林水産8名、食品加工1名

(2)方法 郵送、FAX等による書面調査

(3)時期 令和2年7月31日～令和2年8月31日

2 結果概要(主な意見)

子どもたちや若い世代へ、「朝ごはんを食べる大切さ」や「和食・郷土料理を守り伝える大切さ」を伝えるために、どのような取組が効果的だと思いますか

○取組内容

- ・一方通行の指導ではなく考えさせ、意味や大切さを伝えた上で、実際に体験させる
- ・和食の世界で「ホンモノ」を知ってもらう
- ・知的好奇心を満たしてあげる
- ・各世代が興味をもつ分野や、悩みに着目する
- ・生産から調理までの一連の工程を伝える
- ・地元の食材や料理とその地域の地理や歴史を関連付けて、料理のストーリーと現状を伝える
- ・栄養面、効果を説明する
- ・生きていく上で重要である食べ物を選ぶ力を養う中で、気づいてもらう
- ・生産者、調理人、加工人がコラボした食育
- ・教材を作成し、朝活等で活用することで、小さい時からすりこみを行う

○対象

- ・保護者への食育が重要
- ・子ども自身が実践できるようにする

新型コロナウイルス感染症の発生で、食育活動について影響はありましたか？
工夫した例があれば教えてください

○工夫した取組(情報発信)

- ・SNS(Instagram2名、zoom1名)による情報発信
(例)食べ物クイズ(食材と料理の紹介)、料理で世界旅行・国内旅行(郷土料理)、
トマトの栽培方法とレシピ紹介、包丁の研ぎ方
- ・絵本を作成中

○工夫した取組(実施方法の検討)

- ・三密を避けた短時間の農作業体験を実施
- ・テイクアウトの折り詰めを新たに考案
- ・調理飲食をせずに楽しめる食育教室のプランを作成
- ・コロナ感染症対策用のマニュアルを作成中

○今後実施したいこと

- ・オンラインやYoutubeを活用した食育授業(5名)、子どもたちが家で楽しめる食育ツールの作成

地域での食育を進める上で、今後新たに、連携したい地域の機関(保育所、幼稚園、学校、大学、企業、自治体等)はありますか

○連携したい機関等

- ・保育所(1名)、小学校(2名)、中学校(8名)、高校(6名)、大学(4名)、
- ・市内全学校(2名)、教育委員会
- ・企業(4名)
- ・フリースクール、不登校児の会、障害者施設
- ・公民館、若いママさんの集まり、婚活パーティ
- ・食いく先生同士(食品加工者と農業者や漁業者)

○実施したい内容

・中高生向けに、自分で考える食育活動、自分でできる料理教室、旬の食材の郷土料理や地域の食材の料理教室、学校給食に出る野菜の生産者の紹介、野菜の起源の話

食いく先生の活動について、制度上支援してほしいこと等、課題があれば教えてください
食いく先生の活動をさらに普及するために、改善点等あれば教えてください

○コロナ対策

- ・動画を作成し発信してほしい（4名）
- ・コロナ禍における学習の機会、専門的・具体的情報の周知
- ・コロナ対策を行いながら調理実習を行う支援

○啓発

- ・食いく先生の制度を広報等で広く発信してほしい（2名）
- ・学校以外に、児童館や地域の少年補導や自主防災等の子ども主体の集まりに企画提案してほしい

○交流

- ・和食料理人と野菜の生産者等、地域密着に特化した授業を行いたい
- ・保護者も参加できるモデル授業の形を確立したい
- ・活動の現場に接し、交流する機会があればよい

○研修

- ・スキルアップ講習会の実施を希望する。地域ごとの実施。
- ・食いく先生同士の意見交換を行いたい

○派遣人数

- ・講師派遣人数について、1～29人に1人では少な過ぎる。包丁を使うので、各調理台に1人位欲しい。1人当たりの単価を低くして、複数人が入れるようにして欲しい。特に、低学年の実習は必要。（2名）

○学校

- ・時間のなさ（3名）
- ・各学校・担当の先生による意識の差（2名）
- ・学校側の伝え手の食育の強化（2名）

京都府の食の取組全般について、課題があれば教えてください

- ・コロナ禍においても、食育の取組が推進する対応策の検討をお願いしたい。
- ・いかに食への興味を持ってもらえるか、アプローチ方法の工夫が必要である。
- ・食や料理が好きになってもらえるような取組を推進してほしい。
- ・食選力の推進等、食育で伝えるべきことに優先順位をつけて取り組むことが必要である。
- ・教育委員会等、関係団体が連携した取組を推進してほしい。
- ・事業を一本化して幅広く取り組むことを要望する。
- ・京都府の取組活動の周知。
- ・中学校給食の府内全域給食化。
- ・「スーパー、コンビニ、家庭での多量の食品ロスの問題」「長引くコロナ禍での食料確保の問題」「肉、野菜等の食料がどの様に育てられ、どの様な過程を経て口に入るのか、人間は他の生き物の命を頂いているという認識教育」等を、子供達や若い世代に対して問題認識させる必要があると思う。
- ・食材や料理へ留まらず、食器や食具、食卓、台所の調理道具等、幅広い分野から食を見ること。

<参考>各振興局からの意見

第3次京都府食育推進計画 12「きょうと食いく先生」の授業数の増加について

○成果

- ・毎年度コンスタントに「きょうと食いく先生」を認定する等、一定定着し、取組は広がりつつある。
- ・若年層への食育の浸透。

○課題

- ・食育授業に取り組むかどうかは各学校の判断によるものとなっているのが現状であり、さらに面的な取組拡大を図るには、各学校のインセンティブとなるような具体的な仕掛けが必要。
- ・地域におけるコミュニティ事業を展開している市町村の担当課が食育推進組織への参画が少ないため、地域へ波及しにくい。
- ・各食いく先生の具体的な情報の周知。
- ・継続的かつ実施頻度の多い食育授業。
- ・地域ごとで食育先生の専門分野に偏りがある。
- ・派遣事業を活用されていない「食いく先生」の活動状況の把握。

○考察

- ・制度の周知・PR方法の整備、食育授業の企画から食育先生の派遣要請、授業実施状況の見える化等について、各市町村の食育担当部署、教育委員会、各学校が一体的に取り組むことができるよう、制度スキームの再整備を図ることも今後検討が必要である。
- ・市町村の食育窓口からコミュニティ事業担当課との連携を促し、食育推進を図ることも必要。
- ・食育先生と行政機関等の連携の強化。
- ・食いく先生の情報発信。
- ・食いく先生の交流の場を振興局単位で企画。

ヤングサポーターへのアンケート調査結果

1 調査概要

- (1)対象 ヤングサポーター 13名 (栄養関係の学科11名、和食関係の学科1名、農学関係の学科1名)
 学生 9名 (栄養関係の学科9名)
- (2)方法 インターネット、郵送による調査
- (3)時期 令和2年9月23日～令和2年10月5日

2 結果概要

子どもたちや若い世代において「朝ごはんを食べる大切さ」や「和食・郷土料理を守り伝える大切さ」を伝えるために、どのような取組が効果的だと思いますか

体験(9名)、SNS(3名)、実際のデータに基づいた説明(2名)、学校、授業(8名)、家庭(2名)

- ・実際に作って食べて食べる体験が大事だと思う。プロに学ぶ。
- ・若い世代に身近なSNSを通じた情報発信はよいと思う。
- ・家庭や学校で食育をしっかり行い、身近に考えられるようになると効果的と思う。

若い世代に、食に関する情報を受け取っていただき、興味関心を高めたり主体的な行動に繋げていただくために、どのような取組が効果的だと思いますか。

※京都府では、SNS(食の安全食育情報Facebook、Twitter等)や映像教材(食の府民大学等)で情報発信を行っています。

インスタグラム(5名)、インスタグラムのストーリー、リール※動画(2名)、YouTube(3名)、Twitter(1名)、TikTok(1名)、電車広告(2名)、大学内でのポスター掲示(1名)、テレビCM(1名)、有名人がイメージキャラクターを務める(1名)

- ・和食は見た目にも美しいものが多いので、インスタグラムで美しい写真を掲載すると関心が集まると思う。
- ・ダイエットや美容の情報をまとめイラストにした投稿をよく見るので、それらを参考に、身近に感じてもらえるものを投稿してはどうか。
- ・Twitter等は、フォローしなければ見られないので、全く興味がない人には情報が届かない。インスタグラムのリールなど、誰の目にも勝手に目に触れるものでないと関心を引き出すのは難しい。
- ・若い世代が目につきやすい、学校や大学の構内、電車広告にポスターを掲示する。

食の安心・安全ヤングサポーター登録制度について、①登録してみて感じたもっとこんなことしてみたい等のアイデア、②登録者数を増やすためのアイデアがあれば教えてください。

①登録した感想、今後してみたいこと

- ・登録してとても良かった。コロナが落ち着いたら、食のイベントや農業の手伝い等をしてみたい。(3名)
- ・定期的に食の情報やイベントの案内を受け取ることができて、とても便利と思った。(2名)
- ・SNSによる情報発信について、料理だけでなく、京野菜など京都の優れた素材そのものも紹介してみたい。

②登録者を増やすアイデア

- ・SNSのアカウントを広める。投稿に#(ハッシュタグ)をつける。
- ・若い世代は、インスタグラムが主流。インスタグラムをぜひ始めてほしい。
- ・友達に誘われると入りやすい。
- ・大学構内に、活動詳細を書いたビラ等を置く。
- ・登録のメリットを増やす。

今後、あなたの食生活について取り組みたいこと、目標にしたいことがあれば教えてください。

野菜を食べる(4名)、バランスのよい食事を心がけたい(3名)、規則正しい食生活にする(3名)、旬の食材を使う(3名)、調理技術を向上させる(2名)、朝食を充実させる(1名)、郷土料理(1名)、たんぱく質を意識的に摂る(1名)、減塩をこころがける(1名)等